

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道
発行日 平成28年11月30日

今年もあと一ヶ月… 日常の取り組みに確かな成果！

校長 小野寺憲治

札幌管区気象台が発表した11月上旬の積雪は、統計を始めて以来の大雪とのことでした。それは何と例年の10倍というから驚きです。更に、16日未明から降り続いた雪は34cmとなり、積雪が一時44cm、こちらは20年振りとのことでした。とうとう冬の時季となってしまいました。ご家庭でも、天候の変化による交通状況の悪化や安全面・健康面でご心配のことと思います。

3年生は、進路に向けた取り組みが本格化し、総合テストA、B、Cの結果に一喜一憂しながら、自身の学力向上に向け努力しているところです。3学年の三者面談が終了し、進路実現に向けた追い込みが必要な時期に突入しています。併せて1、2年は教育相談を行いました。大きな行事は終了したので、これからは日常活動に目を向け充実させる時期となります。

「実りの秋」という言葉がありますが、学校も同様で2学期には多くの研究大会が開催されました。それらを通して、生徒の“表現する力”に成果を感じています。授業で展開されるグループ学習において表現力が高まっていることです。10月7日に行われた全国技術・家庭科研究大会では、文科省も含め全国から参加した先生方が見守る中、1年1組が技術の授業を行いました。授業では、生徒が自分の考えをしっかりと発表し、上手く仲間伝えることができているということが高く評価され、お褒めの言葉をいただきました。続く旭川市教育研究大会においては、1年3組が国語の授業を行いました。こちらも同様のお話をいただきました。どちらの授業においても、相手の考えや意見を聞き、自分の考えを述べまとめていくという表現力が必要ですが、上手に出来ているとのことでした。

また、日常的な授業からもこの成果を強く感じています。勿論、こうした成果は中学校教育だけではなし得ないものと思います。小学校における地道な取組やご家庭での親子の会話などから自分の気持ちを相手に伝える、相手の話を聞き考えをまとめることが出来るという日常生活での訓練が出来ているからとも考えます。もう一昔前のことですが、生徒と教職員の会話から「返事がない」「単語のみ」「述語がない」「疑問系」等々、聞き返さざるを得ないという状況を多く見てきましたが、そうしたことが消えつつあります。生徒同士の会話からも良好な状況が見られるようになりました。相手の立場を尊重し、理解し合える、思いやれる学校へと成長が見られ大変素晴らしく感じています。

今後におきましても学校と家庭、地域（小学校を含む）が一体となりスクラムを組んで子ども達を「共育」できれば幸いです。

ご協力を宜しくお願いいたします。

11月25日(金)3年2組公開授業(相似)



〈真剣な眼差しで授業に臨む生徒〉

数学科教員と教育大学の教授で構成されている数学教育研究グループ「数学共育会」の研究授業が行われました。授業の雰囲気や生徒達の取組について、お褒めの言葉をたくさんいただきました。

旭川市体が運動能力優良生徒



〈11月26日(土)アートホテル旭川にて賞状を受け取る越智業名美さん〉